

インターバンクの声（2015年5月12日）

先週末の米雇用統計結果もドルの先行きに対する強い影響を与えるまでには至らず、昨日のユーロ圏財務相会合もギリシャ支援に対する最終的な合意を見送ったため、ユーロも先週木曜日以降の下落トレンドが止めることはなかった。ギリシャ支援については、市場に相変わらず楽観論と悲観論が交錯しているが、昨日の会合後の声明も、交渉の進展は歓迎だが支援合意には「時間と努力が必要」と指摘しており、以前に比べややギリシャのデフォルトが近づいてきた感は拭えない。投資家のポジションが依然としてユーロ・ショートのためなのか、或いはギリシャがデフォルトとなってもユーロへの負のインパクトが余り大きくないと見積もられているためなのか、ユーロの下落ペースが急にはなっていない。1.10～1.11ドル台水準であれば、まだ投資家のユーロ買戻しとはならないはずだ。今日は国内外ともに相場材料に乏しく、日経平均が予想外の値動きにでもならない限りは欧州市場待ちの展開となりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。